

いま言いたい

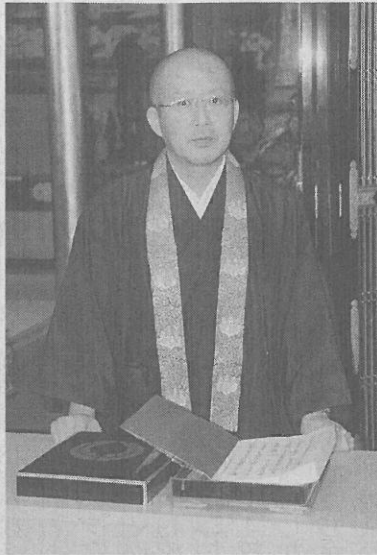
戦争反対をいま言わないでどうする、と強く思っています。

ようになりまして。

もっと声あげて

私は、二十数年前から浄土真宗本願寺派が推進する「御同朋の社会をめざす運動」に参加し活動するうちに、部落差別問題や靖国問題にとりくむ

10年ぐらい前からハンセン病問題にもかかわっています。国家はハンセン病がどのような病気を知らないで隔離政策をしてきたのではありません。



富山市の光蓮寺住職 百山 純哉さん(46)

せん。患者の救済よりも国家の利益、メンツを優先し、国策として強制隔離を推し進めてきたので

少数の弱者を不当におとしめ排除していく差別の構造は、ハンセン病問

法の解釈変更で戦争ができる国にしようとしています。靖国神社への参拝は外交問題に発展しました。靖国神社は戦死した

兵士を追悼する施設ではありません。兵士の戦場での功績を顕彰する施設

ちを繰り返すのか、私たちが一人ひとりが真剣に考えていかなければならぬ問題です。

さまざまな差別の問題にとりくみ、戦争反対の運動をすることで、周囲から「いらんことをする

もなく、すべての人びとが自他ともに心豊かに生きるこのできる社会の実現をめざしていくことが仏教の本来の姿なので

「人間は平等だ」

浄土真宗の開祖親鸞聖人は、差別があたりまえの時代に「すべての人間は生まれながらにして平等である」と声を大きくして言われ、時の権力者によって流罪にされました。共産党も戦時中、戦争反対を訴え弾圧されました。

平和な社会の実現 仏教本来の姿です

題だけではなく、部落問題や在日外国人問題にも共通しています。現在も根強く残るさまざまな差別に對して、もっと声を上げていく必要があります。

です。戦争を賛美し、国民を戦場へ送り出すための精神的支柱となる軍事施設です。靖国神社の存在は「二度と戦争しては

いけません」という立場とは相いれません。これか

憲法改正(改悪)、領土問題、原発問題等、国内外に問題が山積みですが、これからも正しいことは正しい、おかしいことはおかしいと声を大にして言っていま